

松尾雅彦・著

スマート・テロワール

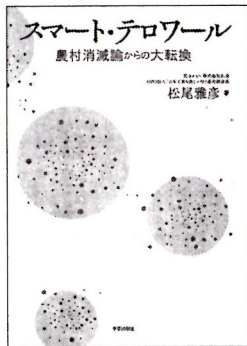
獨協大学教授

北野収

書評

スマートとは「洗練された、無駄のない」を意味する英語。テロワールは「土地、地味」を意味するフランス語。「改革は辺境から」を是とする著者は、競争力を失った製造業に代わり、農業・農村にこそ成長の余地があるという。そのためには、全国一律の従来発想を転換し、地域内で生産・加工・消費を相当程度賄う消費地生産主義に立脚した「地域自給圏」(スマート・テロワール)が必要となる。

本書はポスト工業社会の新たな重農主義、地域主義に向けた戦略的提言の書である。他の先進国同様、かつて日本にも各地の風土に根差した多様な自給圏が存在した。農業基本法農政下の近代化・画一化により、米偏重、耕畜分離が進み、生産・加工・消費の地理的分化が進行した。水田の畑作への転換と地産地消が本書の提言の核である。そして地域住民が賢い消費者と



地域主義への戦略的提言

なり地域の生産者・加工業者と共に「美食革命」の担い手となるべきだと説く。

構想的理論的支柱は経済人類学者、カール・ポラニの「社会に埋め込まれた経済」という考えである。

新自由主義とグローバル化がまん延する一方で、世界各地で食と農のローカル化が進展している。本書が類書と異なるのは運動論だけでなく経営・ビジネスのポキアプラーリで語っているところだ。

著者の松尾氏は元カルビー食品社長。カルビー時代は各地の契約農家を訪ね、現在は「日本で最も美しい村連合」の副会長として全国を奔走している。西欧主要国が元氣な農村を取り戻している。これからの日本は地方の時代、農業の時代であるべきというビジョンに共感する。現場でどのようなアクターがどのようこの改革に参加するか、実践・理論両面からの今後の広範な議論を期待したい。

- ◇ 出版＝学芸出版社
- ◇ 価格＝1800円
- ◇ 副題＝農村消滅論からの大転換